

環境研究総合推進費「5-2204」

「魚類に対する環境医薬品の影響評価法開発に関する研究 ～環境分析・分子応答・行動/繁殖解析による融合評価基盤の構築～」シンポジウム

「環境中に存在する医薬品由来の化学物質は野生魚類にどのような影響を与えるのか」

日時：2023年11月25日（土曜日）13:30-17:00

場所：北海道大学獣医学研究院 講堂（札幌市北区北18条西9丁目）

主催：環境研究総合推進費「5-2204」環境医薬品研究チーム（代表機関：長崎大学）

共催：北海道大学獣医学研究院

対象：市民、学生等

定員：会場参加は80名、web参加には定員は設けておりません。

参加費：無料

申し込みサイト：

会場参加の方 <https://forms.gle/eLAX2Wsf4mExp5hSA>

web参加の方 https://zoom.us/webinar/register/WN_AVWjQEoeTFW51XzHela4cw

申し込み期限：11月20日（会場参加は定員になり次第終了）

趣旨：医薬品は、私たちの病気の治療や健康管理に必要不可欠なものです。それらは私たちが使用した後に、下水処理場を経由して水界に運ばれます。このような医薬品由来の化学物質を「環境医薬品」と呼んでいます。近年、これらの化学物質は新たな環境汚染物質として、水界に生息する野生生物に影響を及ぼすとの指摘がなされています。しかし、どのような環境医薬品がどの程度水界に存在するのか、それらは野生生物にどのような影響を与えるのかは、詳しく調べられていません。本シンポジウムでは、私たちが進めている環境医薬品の自然界での動体とその魚類への影響について、調査・実験によって得られた成果を報告するとともに、みなさんと医薬品のあり方について考えたいと思います。

13:00 開場

司会：村田 良介（長崎大学）

13:30-13:45 （15分）

趣旨説明：環境医薬品問題の概要説明・・・征矢野 清（長崎大学）

13:45-14:30 （45分）質疑を含む

セッション1：環境中に存在する医薬品の実態・・・井原 賢（高知大学）、中田 典秀（神奈川大学）、永岡 花（神奈川大学工学部学生）

このセッションでは、環境中に存在する医薬品の濃度やその物質としての特徴、それが魚類に影響を与えやすいかどうかについて考えます。

14:30-15:15 （35分）質疑を含む

セッション2：環境医薬品の体内での動態・・・宮川 信一（東京理科大学）、井原 賢（高知大学）、金子 蓮司（東京理科大学先進工学部学生）、西村 優佳（東京理科大学大学院先進工学研究科学生）

このセッションでは、魚類に取り込まれた環境医薬品が体内でどのような作用を発現するのか、物質としての特徴と合わせて、考えます。

15:15-15:25（10分）

休憩

15:25-16:10（45分）質疑を含む

セッション3：医薬品が魚類に与える影響・・・長江 真樹（長崎大学）、薙平 裕次（高知大学）、中井 さくら（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科学生）

このセッションでは、魚類に医薬品を曝露した実験結果をもとに、行動や繁殖にどのような影響を及ぼすのかを考えます。

16:10-16:15（5分）

休憩とパネルディスカッションの準備

16:15-16:55（40分）

パネルディスカッション：

16:15-16:30（15分）

話題提供1：世界の環境化学物質汚染の実態・・・石塚 真由美（北海道大学）

16:30-16:55（25分）

テーマ1：新しい水域汚染物質としての環境医薬品

テーマ2：医薬品との付き合い方

16:55-17:00

閉会挨拶：石塚 真由美（北海道大学）